



「 ヴィアドロローサは私たちの道 」

「イースターを覚えて②」 ピリピ人への手紙2：6～12 小野寺 望 牧師

ヴィアドロローサ (悲しみの道)

全14留 (ステーション) の内、聖書に基づくものは9つ。残り4つは伝承。

①総督ピラトがイエスを有罪にする。アントニア要塞 (ヨハ18：28～19：16)

②むち打ち。ここでイエスは十字架を受けた。

*エックホモアーチ (ラテン語で「見よ、この人を!」の意) は、ハドリアヌス帝がユダヤ人の反乱を鎮圧した記念に建てた凱旋門の一部。

③イエス・十字架の重みに倒れる (伝承)

④母マリヤとの出会い (伝承) : ビザンチン教会の上に、アルメニア・カトリックの教会「苦悩の母マリヤ教会」が1880年代に建てられ、1947～8年に再建された。

⑤クレネ人シモン、十字架を背負う。(マコ15：21～22)

⑥ペロニカ、イエスの顔をハンカチで拭う (伝承) : ギリシア正教の聖堂がある。

⑦イエス二度目に倒れる (伝承) : フランシスコ派の聖堂がある。

⑧イエス、エルサレムの女たちのために嘆く (ルカ23：27～31)

⑨イエス、3度目に倒れる (伝承) : 聖墳墓コプト教会入口

～以下⑩から⑭は聖墳墓教会内にある。

⑩イエス・服を脱がされる。 ⑪イエス、十字架にくぎ付けにされる。

⑫イエス、十字架上で息を引き取る。 ⑬イエス、十字架から降ろされる。

⑭イエスを墓に埋める。



【 ピリピ人への手紙 2章 】

- 6 キリストは、神の御姿であられるのに、 神としてのあり方を捨てられないとは考えず、
- 7 ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、 人間と同じようになられました。
人としての姿をもって現れ、
- 8 自らを低くして、死にまで、 それも十字架の死にまで従われました。
- 9 それゆえ神は、この方を高く上げて、 すべての名にまさる名を与えられました。
- 10 それは、イエスの名によって、 天にあるもの、地にあるもの、
地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、
- 11 すべての舌が 「イエス・キリストは主です」と告白して、
父なる神に栄光を帰するためです。
- 12 こういうわけですから、愛する者たち、あなたがたがいつも従順であったように、私がとも
にいるときだけでなく、私がいなくてもなお従順になり、恐れおののいて自分の救いを
達成するよう努めなさい。

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用

◆はじめに ～メシアの受難と復活を覚えて

1. イエスの十字架に目を止めよ ピリ2：6～8

- (1) それは神の子イエスが受ける苦難のピークである。
 - ①それを唯一地上で追体験できるのが、エルサレム旧市街のヴィアドロローサ。
 - ②イスラエル聖地旅行には、他に代えがたい祝福がある。
- (2) それは父なる神が望まれたことであり、子の従順な業に満足した。
 - *なぜイエスは死ぬ必要があったのか？なぜ神はそこまでしてくださるのか？

2. 十字架を通して、全人類に神の愛が示された。

- (1) それを受け取るかどうかの判断は、あなた次第であり、死後責任が問われる。
- (2) 罪深い私たちにさえ注がれる神の愛の深みを知るべきである。
 - ①神の愛を拒否すること自体が、重大な罪であり、罪人であることを表れである。
 - *それは、「悪魔(偽り殺す者)」につぐ選ひであり、滅びに向かう道である。
 - *人間は、罪を赦していただき、神と和解する必要がある。
 - ②あなたにとってイエスの十字架は何ですか？
 - *無関心の者が変えられ、既に信仰を持つ者が、なおイエスを近く感じることができるように・・・



◆メッセージのアウトライン紹介とゴール | ヴィアドロローサは私たちの道である

*このメッセージは、ヴィアドロローサを通して、十字架をより身近に感じるためのものである。

I ヴィアドロローサとは

1. 習慣の起源と現在

- (1) イエス・キリストが有罪判決を受け、カルバリ(刑場)に向かった道のり。
- (2) 主イエスを偲ぶ、巡礼者たち(クリスチャン)が重んじる場所。
 - *十字軍時代に始まった習慣で、現在の形になったのは14世紀。
 - *オスマン・トルコ時代の16世紀半ばにさらに発展した。
- (3) 毎週金曜日、フランシスコ派信徒は十字架を背負って行進し、各留で祈禱する。
- (4) 当時の町は埋められており、実際の道は地下3メートルほど下にある。

2. この場所に込められた意味 ～イエスが十字架を背負って歩まれた道

- (1) 信仰のない者にとっては、聖人とされる者の死、また一罪人の処刑に過ぎない。
 - *自らが神に対し「罪人」であり、内にある「罪」の性質を認めない人々。
- (2) イエスを信じる者にとって、この場所は特別な意味を持ち、証言する。
 - ①神の子が歴史に介入されたこと。
 - ②人生の最後に、悲惨な十字架の死を遂げられたこと。

II ヴィアドロローサは二つの道である。

1. 悲しみの道

- (1) 戦いに勝利した将軍は、群衆の歓呼の声に迎えられ、凱旋門から帰還する。
- (2) 神の子イエスは、そのような称賛を受けることはなかった。
 - *棕櫚の葉を敷き、「ホサナ」と呼ぶ歓喜の声は、瞬く間に怒りと罵声に置き換わった。
- (3) イエスは死刑囚として、当時のローマの慣習に従って、十字架(最も過酷で残虐な刑)を背負ってこの道を歩まれた。
 - *その頭にはいばらの冠があり、背中には、むち打たれたざくろのような傷跡があった。
 - *受肉の必要：キリストは完璧に神であると同時に、全面的な人となられた。
- (4) 人々への愛のみを示されたこのお方が、凱旋ではなく、悲しみの道を歩まれた。

2. 栄光の道 ～悲劇の奥に用意された神の計画

- (1) ヴィアドロローサはまた、栄光の道でもある。
 - *キリストの苦難と十字架は絶望で終わらない。復活の朝につながるからである。
- (2) 罪人の救いという視点では、イエスの従順さの勝利である。ピリ2：8
 - *悪魔との闘いという意味では、その御心がなされた、神の勝利である。
 - ①イエスは、受難の時こそ栄光を受ける時であることを理解しておられた。
 - *ヨハネ12章「地に落ちた麦」
 - ②イエスの苦難は筆舌に尽くし難いほどの苦しみ
 - ③やがて一粒の麦の死は、「豊かな実」をもたらすものとなる。

◆まとめ：ヴィアドロローサは私たちの道である

1. 十字架がもたらす祝福

- (1) 神との和解 ロマ5：10～11
 - ①人間を完全に变えることで、神と人間を再度結び付けた。位置的真理
 - ②神が変わったのではなく、神の人間に対する態度が変わった。
- (2) モーセの律法の要求が満たされた
 - ①使徒15：10～11 異邦人はどのようにして救われるかという文脈
 - *信仰によってのみ救われる。ロマ3：21～22
 - *モーセの律法の要求は、メシアの死によって満たされたことを示している。
- (3) 代価で買い取られ、自由になった。 1コリ6：20、ガラ3：13
 - ①クリスチャンは主の弟子として、「自らに架せられた十字架を背負う」
 - ②クリスチャンとは、罪赦され、イエスと共に歩む者。

2. イエスが町中を罪人として歩まれたことの意味

- (1) この道は本来、私たちが十字架と罪状書きを背負い、歩まなければならない道。
- (2) 商人たちの声が飛び交い、通行人で込み合う道。市場の食材やお菓子の匂いなど
- (3) ヴィアドロローサは私たちの日常生活の中にある。
 - ①クリスチャンが日常の歩みの中で罪を犯すとき、そこにヴィアドロローサがある。
 - ②まさに、そのような私たちのために、苦しみを負ってくださった。